



霞が関の若手職員に「人生の墓場」なんて言わせてはならない！だから霞国公、東京国公と共に闘いましょう！

20～30代が中心の職員38人による「厚労省改革若手チーム」が4月に発足し、8月26日に、業務や組織の改革のため、根本匠厚労相に対し緊急提言を行いました。この内容はマスコミ各社でも大々的に取り上げられました。若手職員等は提言を出すにあたって、アンケート調査を実施しましたが、アンケートには「(霞が関の職場について) 人生の墓場に入っているとずっと、思っている」との悲痛な叫びも寄せられたとのことです。霞国公・東京国公は27年間に亘って「霞が関残業アンケート」を実施していますが、同様の訴えが毎年届けられています。

私たちは将来ある若手職員に「人生の墓場」なんて言わせてはならないと思っています。根本的な問題は業務量に見合う人員が配置されていないことです。霞が関国公と東京国公は政府の定員削減には、国民の財産・生命・安全・安心を守る点から反対し、増員を求めてきました。みなさん！労働組合と共に行動を起こしましょう！（左の写真は2019年1月9日23時の厚労省）

「働き方改革」を言うなら政府のお膝元霞が関から
定員削減ではなく大幅増員を求めます
異常な長時間・過密労働を今すぐなくそう
非常勤職員の労働条件の抜本改善を

東京国公／霞国公 office@tk-kokko.org

8時間労働があたり前の日本をめざし、働き方改革 はまず霞が関から

霞が関職員の75%が年720時間残業者指定

2019年9月26日には長時間残業の原因の一つでもある国会における各党の質問通告に関わっての要請を、自民党、立憲民主党、日本共産党の各国対委員長への申し入れを行いました。(写真は自民党森山国対委員長) 基本的な理解は得られました。要請内容は①質問通告は時間外労働を抑制するために質疑の2日前までに通告してください。②質問に関わる事項を明確にしてください。③質問通告に齟齬をきたさないために、各委員会の開催日程を速やかに確定してください。④国家公務員の働き方改革にかかわって、懇談の場を設けてください。以上です。

第27回(2019年)霞が関残業実態アンケート府省別ワースト3

	霞が関平均	ワースト1位	ワースト2位	ワースト3位
月平均 残業時間	36.9時間	厚労省(労働) 57.1時間	厚労省(厚生) 54.7時間	国交省本省 45.5時間
月80時間以上残 業割合者	9.8%	厚労省(労働) 27.6%	厚労省(厚生) 19.9%	経産省本省 16.1%
年次休暇の 取得日数	11.7日	経産省本省 10.0日	厚労省(厚生) 11.2日	農水省本省 11.6日
残業手当に 不払いがある	41.6%	厚労省(労働) 78.1%	国交省本省 72.8%	厚労省(厚生) 72.7%

毎年の残業縮減と増員に関わる各単組、霞が関国公、東京国公の取組み

- 1、毎年春に霞が関残業アンケートを実施、その内容は厚労省記者クラブで発表。マスコミ各社が霞が関の異常な残業実態を報道。
- 2、春闘時期に、人事院、厚労省、財務省、内閣人事局に増員、残業の縮減対策を要請。
- 3、国会議員要請(各党国対委員長)―国会質問通告に関わって。
- 4、国家公務員の増員署名、国会議員要請。
- 5、春闘期の共同行動実行委員会(官と民の労働組合で結成)による銀座、西新橋1丁目交差点、霞が関での宣伝行動

*各単組は職場の実態に合った増員等の要求を当局交渉で行っています。

